



白河市 議会だより

2023.2.1

12月定例会

VOL.69

3つの小学校が統合し
昨年4月に開校した大信小学校



〈令和4年12月定例会〉

目次

- ・ 令和5年癸卯今年の抱負…………… 2～3p
- ・ 12月定例会 …………… 4～5p
- ・ 各常任委員会の審査…………… 6～7p
- ・ 行政視察レポート（総務・建設水道常任委員会）…………… 8p
- ・ 14名が一般質問 …………… 9～13p
- ・ 3月定例会予定／表郷ジャッコイ自生地清掃活動／編集後記 … 14p

いあいあし

議長 筒井孝充

市民の皆様には、日頃より市議会に対し、温かいご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

我が国は、コロナの国内発生から既に3年が経過しますが、未だ終息が見えず、さらに季節性インフルエンザとの同時流行が懸念され、また、ロシアのウクライナ侵攻から既に1年経過し、それらに起因する物価高騰など、国内外ともに取り巻く環境はますます厳しさを増しており、本市の社会・経済にも深刻な影響を及ぼしております。

こうした様々な課題や社会のニーズに 대응していくために、将来にわたり持続可能な社会へ向けた的確な取組みが求められております。

私たち市議会は、二元代表制の一翼としてその使命と責任を果たし、市議会一丸となつて諸課題の解決に向け、全力で取り組んでまいりますとともに、議員一人ひとりが、不断の研鑽と努力を重ねながら、市民の付託と信頼に応えられる議会を目指してまいります。

皆様にとりまして、本年が幸せで大きな飛躍の年となりますように心よりお祈り申し上げます。



みなな
「ぎかいがわかる」を
めざします

おおきえり



スポーツと
子育て支援と
DX

吉見優一郎



まちづくり
住みよさあげて
シン・白河

鈴木裕哉



新年の
朝に誓いて
市の発展

高島 裕



勇気ある
小さな一歩
大きな歩み

戸倉宏一



SDGsで
持続可能な
まちづくりを

荒井寿美



住んで
良かった街づくり
頑張ります

根本建一



誰一人、
取り残さない
まちづくり

室井伸一



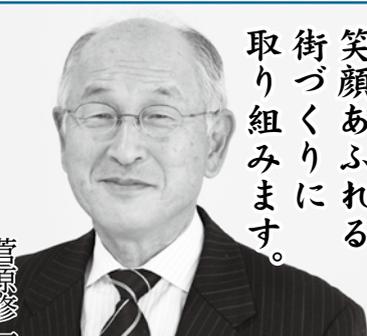
困り事 悩み事
寄りそって
参ります。

緑川健生



白河の明日への灯
仙台育英白河の関越え

柴原隆美



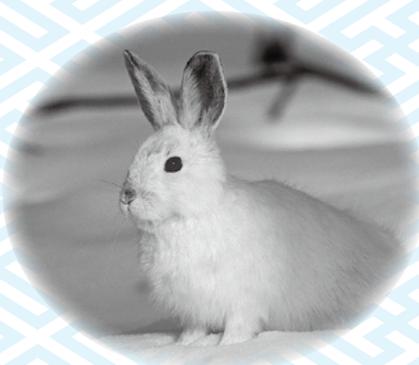
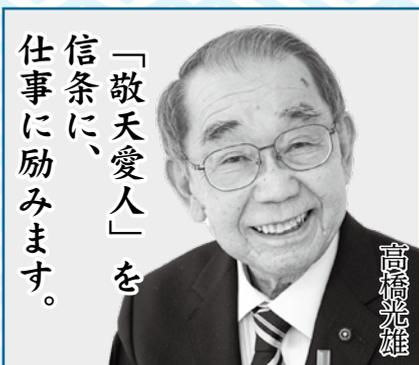
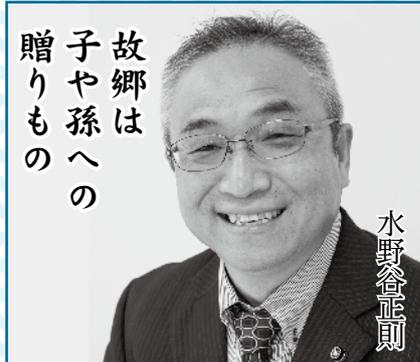
笑顔あふれる
街づくりに
取り組みます。

菅原修一



民を憂う者は
其の身を顧みず

北野唯道



12月定例会

12月定例会は、12月8日から21日までの14日間の会期で開催されました。子育て世帯物価高騰対策支援給付金支援事業や出産・子育て応援交付金事業に関わる補正予算案を含む議案26件について審査し、いずれも原案のとおり承認、可決、同意されました。

一般質問は12月14日から3日間行われ、14人の議員が登壇し、市政全般にわたって議論が行われました。(9～13ページ)

また、9月定例会において継続審査となっていた市民からの請願1件が趣旨採択され、関係機関に意見書を提出しました。(5ページ)

議案ピックアップ

- ◆市長提出議案…………… 26件
- ◆うち人事案件…………… 2件
- ◆請願…………… 1件
- ◆報告…………… 2件
- ◆議員提出議案…………… 1件

全ての議案の審査結果は市議会ホームページをご覧ください。



予算 PICK UP その1 子育て支援

◆議案第119号 令和4年度白河市一般会計補正予算(第9号)

「子育て世帯物価高騰対策支援給付金支給事業」 9,403万2,000円

燃料費や光熱費、食料品等の物価高騰による負担を軽減するため、高校生以下の子供を育てる世帯に児童一人当たり1万円を支給する。

対象者

- ・高校生以下の子供を育てる世帯
(児童手当が本則給付の所得要件に該当している方)



◆議案第138号 令和4年度白河市一般会計補正予算(第11号)

全ての妊婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができる環境を整える

「出産・子育て応援交付金事業」 4,069万3,000円

妊娠時から出産・子育てまで一貫した「伴走型相談支援」と「経済的支援」

伴走型相談支援

産前

- ①妊娠届出(母子手帳交付)時の面談
- ②妊娠8ヶ月前後の面談

産後

- ③乳児家庭全戸訪問時の面談

経済的支援

妊娠時に「出産応援金(5万円)」と出産時に「子育て応援金(子ども1人あたり5万円)」を支給する。

対象者

- ・令和4年4月1日以降生まれた児童
- ・既に生まれている児童に対しては「出産応援金」と「子育て応援金」を合わせた10万円を給付
- ・令和5年1月以降に母子手帳を交付する妊婦には、交付後に「出産応援金」5万円、出産後に「子育て応援金」5万円を支給



◆議案第134号 令和4年度白河市一般会計補正予算(第10号)

「農業生産資材高騰対策事業」 7,720万8,000円

① 肥料価格高騰分の1/3を支援する県補助金に対し、市が同額を上乗せして補助する。

対象者 水田（30a以上）による生産者

補助額 水稲：500円/10a
水稲からの転換作物：1,500円/10a

② 農業生産資材や家畜飼料の高騰分の一部を市が独自に支援する。

対象者 認定農業者（認定新規就農者含む）

水稲：肥料を除く生産費上昇分の10% 1,000円/10a

補助額 野菜、果樹、花き：肥料を除く生産費上昇分の20% 6,000円/10a

畜産：1頭あたり生産費（飼料代含む）上昇分の20%
牛5,000～10,000円 豚1,000円 鶏200円



請願と意見書

請願

クローズアップ
請願と意見書

請願第5号 「動物を虐待から守るための法整備を求める意見書提出の請願書」

〈請願者〉 近藤 栄子、あさかわペットサポート 代表 上野 邦江

〈要旨〉 動物愛護管理法第44条に違反し、虐待やネグレクト、多頭飼育による飼育崩壊等が認められた場合、飼い主の同意を得ることなく、緊急的に動物を保護できるよう法整備をすること。

※同請願は9月定例会に開催された「議員間討議会」（より適正に表決することを目的に議員同士が自由に意見交換を行うこと）を経て、議会運営委員会で「継続審査」となっていました。

議会運営委員会の採決

趣旨採択



趣旨のみ取り上げるという議決方法です。

本会議の採決

意見書第8号 全会一致で採択され、関係機関に意見書を提出しました

採択

人事案件

教育委員会委員・農業委員会委員の任命に同意

白河市教育委員

ぬまた あゆみ
沼田 鮎美氏（表郷金山）

任期
4年

教育委員とは…

地域の学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する機関である教育委員会の委員。
本市は4名の委員で構成されている。

白河市農業委員

くまだ しげお
熊田 林雄氏（本沼）

任期
2年
3ヶ月

※前任者の
残任期間

農業委員とは…

農業者の代表として農地の権利移動や農地転用を中心とした農業行政の執行をはじめ、遊休農地の有効利用の指導等を行っている。
本市は19名の委員で構成されている。

総務 常任委員会

行政住宅分譲地、土地売払収入208万8,000円

「地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備等に関する条例」のほか、議案8件が付託され、いずれも原案のとおり承認及び可決されました。

● 議案第134号 令和4年度白河市一般会計補正予算（第10号）

さらなる販売に期待！

Q | 未販売地及び今後の販売促進を図る手立ては？

A | 未販売地は、第2白鳥ニュータウンで34区間、田園町府ニュータウンで12区画となっている。地方分散が進行する中、行政分譲地が移住希望者への一つの受け皿になると思われることから、次年度以降は、SNSなどの活用も視野に入れ、幅広い層に本市の魅力や土地情報を発信し、販売促進を図っていきたい。



白鳥ニュータウン



田園町府ニュータウン

市民産業 常任委員会

電気料金の高騰に対する商店会等への電気料金を補助！

「小田川市民センターの指定管理者の指定について」のほか、議案9件が付託され、いずれも原案のとおり同意及び可決されました。

● 議案第127号 聖ヶ岩ふるさとの森の指定管理者の指定について

元年度1万人、今年度8,400人。

Q | 「聖ヶ岩ふるさとの森」の利用者数の推移は？

A | 令和元年度の利用者数は約1万人、令和2年度には新型コロナウイルスの影響で約7,000人に落ち込んだが、令和3年度には約9,000人、令和4年度は11月現在で8,400人まで戻り、コロナ禍前の水準近くまで戻ってきている。



聖ヶ岩

● 議案第134号 令和4年度白河市一般会計補正予算（第10号）（商工業振興対策事業）

14団体約750基の街路灯

Q | 電気料金の高騰に伴い、街路灯補助金に該当する各商店会等の団体数と現在の一基あたりの年間電気料金は？

A | 補助対象の団体数は14団体で約750基の街路灯があり、商店会等のアンケートによると一基あたり4,000円から7,000円かかっている。商店街の良好な街なみと商店会等活性化を図るため、費用の一部を補助する。

施設の管理に民間のアイデアや能力を活用し、住民サービスの向上と経費縮減を図る

「白河市武道館の指定管理者の指定について」のほか、議案5件が付託され、いずれも原案のとおり可決されました。

● 議案第132号 白河市武道館の指定管理者の指定について 施設の適正な管理を行う



白河市武道館

Q | 指定の際、管理業務の審査状況は？

A | 指定管理者審査会において、目的に沿った施設管理が適切になされていることを確認している。

● 議案第134号 令和4年度白河市一般会計補正予算（第10号）（子どもの居場所づくり支援事業） こども食堂を支援する

Q | 事業の内容について？

A | 市内のこども食堂に対して1回あたり2,000円を上限として、120回分の助成を行う。



遊具がある公園は70箇所、引き続き点検し安全に

令和4年度白河市水道事業会計補正予算（第2号）のほか、議案3件が付託され、いずれも原案のとおり可決されました。

● 議案第138号 令和4年度白河市一般会計補正予算（第11号）（公園管理費） 長寿命化計画の補助事業等を活用しながら更新、修繕、安全対策！



Q | 市が管理する公園と遊具がある公園数は？老朽化した遊具の整備状況は？

A | 令和4年11月現在180箇所で遊具がある公園は70箇所。都市公園の遊具については、公園施設長寿命化計画の補助事業を活用し、更新や修繕をひと通り完了しているが、使用頻度や耐用年数などを考慮しながら引き続き毎年点検し、安全対策を講じていく。

現地調査 11月25日

「白河市水道事業」



水道用水の水源（堀川ダム）



急速ろ過池（芝原浄水場）



配水の状況はモニターで監視（立石山配水場）

各家庭に給水されるまでの水道水が、どのような経路で配水されているのか現地視察しました。西郷村の堀川ダムの視察をはじめ芝原浄水場、川田取水場、向山配水場、立石山配水場までの視察を行い、白河市の水道水が安全に安定的に各家庭に供給されているか確認しました。

総務常任委員会は、所管事務調査の一環として11月9日から10日まで、岩手県北上市、同県紫波町にて行政視察を実施しました。

〈参加者〉委員長 大竹 功一 副委員長 大木 絵理
 委員 石名 国光 委員 縄田 角郎
 委員 根本 建一 委員 吉見 優一郎

北上市保健・子育て支援複合施設hokko(ほっこ)

利便性の良い工夫が多数

天候に左右されず、一年中屋内での一体的な検診実施が可能となるよう、検診車を屋内に配置できる構造となっていることや、衛生面、そして安全面に配慮したこども検診ルームを設置するなど、いずれも利用者目線を第一に考えた施設づくりをしていた。本市の複合施設の類似施設の先進事例として大変参考になった。

紫波町「オガールプロジェクト」

民間主導型の公民連携まちづくり

10.7haの町有地を民間主導型の公民連携により公共と民間の混合施設を整備するもので、全国から成功事例として注目を集めていた。官と民の役割分担により、県フットボールセンターをはじめ、図書館、バレーボール専用体育施設を兼ね備えた宿泊施設、役場庁舎、直売所、保育園の整備等を行っていた。このプロジェクトによって紫波町の地価公示は10年連続で上昇し、21.7%の増となっていた。



紫波町「フルデマンド型乗り合いバス」

利用登録不要で誰でも利用できる

片道 500円、乗合のときには 300円で、誰でも等しく利用が可能であり、自由に乗降場所を設定できるという運行システムとなっていた。最短ルートなどを計算するAIのシステムを採用しているのが特徴。利用者から評判がよくスムーズで、かつ、効率的な運行に取り組んでいた。

紫波町「まち・ひと・しごと創生総合戦略推進事業」

企業版ふるさと納税

町に関わる事業を実施しようとする民間事業者から提案された事業を、事業者自ら町内外の事業者に対して企業版ふるさと納税により町内への寄付採納を呼びかけ、その寄付額の範囲内を限度額とし、補助金を交付して行う事業。これまでに、バレーボールを活用した地域振興事業が実施されていた。

建設水道常任委員会は、所管事務調査の一環として11月9日から11日まで、宮崎県日南市、鹿児島県霧島市にて行政視察を実施しました。

〈参加者〉委員長 北野 唯道 副委員長 室井 伸一
 委員 山口 耕治 委員 大花 務
 委員 戸倉 宏一

宮崎県日南市「城下町飢肥景観計画」他

住民自らのアイデアでまちづくり

日南市では美しいまちづくり「城下町^{おび}飢肥景観計画」「港町^{あぶらつ}油津景観計画」について行政調査を行いました。城下町・飢肥地区では昭和50年頃に江戸時代から続く街並みについて議論が行われ、地元の人たち自らが研究会を立ち上げ課題解決に向け取り組んできたこと、また、油津地区の赤レンガ館の歴史ある建物の保存に際し、30数名の有志の方が資金を出し合い、後にまちづくりに役立ててもらおうと土地建物を市に寄贈するなど、景観まちづくりの推進に向け、住民をはじめ、多様な組織の参加により取り組まれていました。

私たちが注目したのは、住民自らが自発的にアイデアを出し、観光のためのものではなく、まちの歴史や文化を後世に伝えることに重点が置かれたことでした。観光開発はその結果であることを学ばせていただきました。



鹿児島県霧島市

民間主導のリノベーション

霧島市では「リノベーションまちづくり」「霧島リノベーションまちづくり実行協議会」について行政調査を行いました。リノベーションとは既存の「自然・歴史」と磨き上げてきた「人・食」とを「遊休不動産(空き家、空き店舗等)」という新たな資源とリミックスすることにより、地方でイノベーションを興すことを目的とした課題解決のための取り組みであることが分かりました。そして、行政に頼るのではなく民間主導でリノベーションまちづくりに挑戦しているということでした。行政側は民間主導のリノベーションを支援するという立場で、まちづくりの成長戦略に繋げていることを学んできました。



◇一般質問とは行政全般にわたり、市長などの行政側に対し、現状や見通しを質問したり、あるいは報告や説明を求めたりすることです。

◇時間制限は質問、答弁時間を含めて60分以内です。

◇一般質問をする議員はその要旨を事前に通告することとなっています。

一般質問

12月定例会では14名の議員が一般質問を行いました。
本会議のネット中継及び録画配信を行っています。
ホームページや各議員のQRコードから視聴できます。



12月定例会において延べ52名の方が傍聴にお越しくださいました。ありがとうございました。

矢吹天栄線、町屋～日和田間の見通しは

昨年度から県が事業着手。早期完成するよう支援

円滑に進むよう支援していく。また、事業のさらなる促進を図るため、市長が県に要望活動を行っており、引き続き早期完成するよう取り組んでいく。



西郷搦目線白井掛工区(三番町側)



北野 唯道 議員

Q 道路行政について
西郷搦目線の未着手部、三番町から結城の今後の見通しについて。

現在は事業用地の取得に努めているところである。残りの三番町から向新蔵までの白井掛工区及び小南湖から結城までの旭町工区については、国道294号白河バイパスの開通により市内の交通需要が大きく変わることから、市街地の交通量の推移を見極めながら事業化の時期について検討する。

Q 矢吹天栄線の未着手区間(町屋から日和田間)の今後の見通しについて

A 県道矢吹天栄線の町屋から日和田地区は、県が昨年度から事業に着手し、現在、測量や設計を行っており、今後、用地買収を進め、早期完成に向け取り組んでいくことから、市としても用地取得が

31年度から事業に着手し、

A 西郷搦目線の三番町から結城の区間のうち、向新蔵から小南湖までの円明寺工区については、県が平成

急激な少子化により、小中学校の配置、学区について見直す時期にきているのでは

将来の児童生徒数を見通し、慎重に議論を重ねていきたい

A 重要なことは、地域の魅力や特色を生かし、人口減少のスピードを緩やかにし、暮らす人が、「住みやすい」「住み続けたい」と感じる地域社会を持続させることである。

Q 教育行政について
急激な少子化や市街地の変化に伴い、小中学校の将来の配置や学区の見直しを検討する時期にきていると思うが教育委員会の見解は。

A 将来の児童生徒数や学級数を見通し、地域の実態、通学条件をもとに良い教育環境について慎重に議論を重ねたい。

Q 学校給食の食材の地産地消をさらに推進すべきでは。

A 地元農畜産物の使用割合の目標値50%に近づいている。さらに推進する。



佐川 京子 議員

Q 人口問題について

本市では合併後の16年間で人口が10・1%減少し、出生数も37・8%も減少している。今後、人口減少による経済規模の縮小や生活水準の低下を招かないため、本市の未来をどう描き、対策を講じていくのか。



地域振興について

地域課題解消のため、主体的な行動指針となる市独自計画を策定する



水野谷 正則 議員



Q 人口減に伴う地域振興をどう。

A 地域課題解消のため、主体的な行動指針となる市独自計画を策定する。

Q 職員の定年延長と役職定年について

A 5年度から2年に1歳ずつ段階的に引き上げ、13年度から65歳になる。役職定年となった職員が能力を最大限に発揮できるよう働き方について議論していく。

Q 農業商業への市の物価高騰対策は？

A 県の肥料高騰補助に同額を補助する。さらに、水稻や野菜、果樹、家畜等を出荷する認定農業者等に補助を行う。

市民一人につき3千円のクーポンを配布するとともに、商店会街路灯の電気代及び改修費用等の一部補助を行う。

Q 園児等の置き去り防止について

A 同乗した保育士が座席や忘れ物の確認、運転手が清掃と再度確認している。

Q 進学等における奨学金等について

A 奨学金の無利子貸与制度や定住促進事業として2割返還免除もある。

Q 白河市・港区環境交流事業について

A 5年度は交流事業を実施したい。



新そばまつり

本市水道行政をどのように運営していくのか伺う

豊かで貴重な水を後世に残していく



戸倉 宏一 議員



Q 近年、自然災害の増加、給水利用人口の減少、給水設備の老朽化等々の課題もあるが、高い公共性の水道事業をどのように運営していくのか伺う。

A 市として豊かで貴重な水を守り後世に残す責務がある。水道インフラを公営

により継続し、今後の水需要を見据え、各施策を講じ、経営基盤強化に向けた取り組みを推進する。

Q 市の観光PR強化について伺う。

A 白河市が応援、白河を応援プロジェクト事業として「知ってもらおう」「来てもらおう」「食べてもらおう」の視点から、読売新聞東京本社と連携し、観光資源の魅力を首都圏に対し情報を発信中。広域連携が重要なため県南地方でも狛犬や自然ゴルフなど足元にある共通資源を活用し県内外にPR。また、仙台育英学園高等学校が全国高校野球選手権大会で東北勢初となる優勝を果たし「白河の関越え」が多くのメディアに取り上げられたことを契機に、全

国から多くの

方が訪れている。アフター

コロナを見据え、積極的に

情報発信に取り組んでいく。



国指定史跡白河関跡

公共施設や学校に設置しているAEDに三角巾を配備してみたらどうか

女性に配慮した三角巾を備える



室井 伸一 議員



Q 公共施設や学校等に設置されているAEDに女性に配慮した三角巾を配備してみたらどうか。

A AEDは、一般的に使用が一分遅れるごとに救命率が10%低下すると言われており、素早く作動させることが命を救うことにつな

がる。このため、市の施設に設置しているAEDには、躊躇なく使えるよう女性に配慮した三角巾などの被覆物を備える方向で検討する。

Q 令和元年9月定例会で防災士の資格取得のための助成制度について質問をしたが、執行部からは「助成制度の創設について調査・研究を進めていく」との答弁であったが、その後、どのような検討がされたのか。

A 防災士の養成は、地域防災力の向上を図るうえで重要であることから、本年度より「地域の底力再生事業」に補助金制度を創設し、資格取得の費用の一部を4名の市民に助成した。今後、町内会の会合や総会時に加え、広報紙やホームページなどにおいて周知を図っていく。



市民課

「ゼロカーボンチャレンジしらかわ」について

「環境配慮型製品への買換え」の支援を検討する



鈴木 裕哉 議員

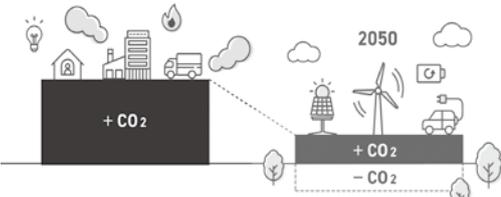


Q 本市は脱炭素社会の実現のため昨年10月「ゼロカーボンチャレンジしらかわ」を宣言したが、具体的な取り組みについて伺う。

A 現在、温室効果ガスの削減目標や方法を示した温暖化対策実行計画を策定している。未来を担う小中学生を対象に環境教育「省エネ・学び講座」の開催、庁舎や「りばらん」などの公共施設、小中学校の照明のLED化や電気自動車への更新など省エネ活動を率先して行っている。「環境配慮型製品への買換え」を促すための支援として太陽光発電や蓄電池、EV（電気自動車）購入の支援制度について検討していく。

Q 昨今、街なかの歴史的な建物が解体され空き地が目立っている状況について伺う。

A 歴史的な景観を維持していくため、指定を受けた建物には修繕費の一部に補助支援を行っている。また、建物の歴史や周辺の地域資源にも着目しながら、建物に新たな価値を見だし活用するリノベーションもまちづくりにも取り組んでいる。



提灯祭りの維持発展のために、相談された場合の対応は

まずは関係者で課題を浮き彫りにし、検討することが必要



高橋 光雄 議員



Q 「しらかわ提灯祭り」は、36年以上続く本市を代表する伝統的行事である。しかし、産業構造の変化や少子高齢化に伴う人口減少で、市街地の空洞化など各町内を取り巻く環境は厳しさを増している。町内関係者からは、祭りを継続するにあたり、人材及び財源確保が極めて厳しいという悲鳴に似た声が聞かれる。祭り関係者から市長に対し、この窮状を打破して祭りを維持発展させるためにぜひ相談にのってほしいとの申し入れがあった場合、対応をどうするか、伺う。

A まずは神社や祭り関係者が、祭りを継続していくための課題を浮き彫りにし、検討することが必要。それらを整理した上で、祭りの主体となっている人々だけでなく、市も含め様々な関係者と連携・協働することで、より効果的な手法を探ることができると考える。全国には民間と行政が一体となつて祭りを実施している事例もある。それらの運営体制や実施手法等についても調査する。



保育の質、チェックと向上を同時に！外部講師の訪問指導を！

実施園数や回数の拡充を検討する



大木 絵理 議員



Q 民間主導型公民連携まちづくりは先進地で大きな成果をあげている。公民連携について市長の考えは？

A 複合施設整備や廃校の新たな利活用等において、先進的な事例を参考にしている。

Q 市内民間団体の情報を行政全体が把握し、市民協働を活性化させるべきだと思いが、市の考えは？

A 民間団体の「情報の見える化」について、先進地の事例や関係団体の声を踏まえながら検討する。

Q 保育施設の安全管理と保育の質のチェックについて

A 各園において現場の安全確認を行っている。公立園は今年度から外部講師の園訪問型の指導を開始した（幼稚園3園、保育園2園、各2回）。今後効果を検証し、実施園数や回数の拡充を検討する。

Q 若者の居場所、スケートボードパークの新設を望む。

A ニーズ把握に努め議論していく。

Q 若年層投票率向上の取り組みとして、高校や大学等と連携した参画型選挙を！

A 高校等関係機関との連携と若い世代への周知に努める。

学 年	待機児童数
0歳児	37名
1歳児	6名
2歳児	2名
3歳児	1名

（12月1日現在の待機児童数）

「防災士」養成と育成、町内会と連携した取り組みは

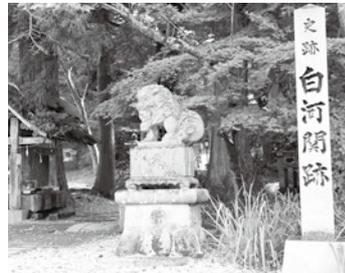
登録制度の創設や組織化を視野に調査検討する



藤田 文夫 議員



Q 「白河の関」に関連した観光について伺う。
A 令和5年2月には、国道294号白河バイパスの供用が開始され、周遊観光の後押しとなる。令和5年オープン予定である「白河観光ステーション」を起点



に、様々な観光情報の発信や観光メニューの提案などにより旅の満足度を高め「また訪れたいまち白河」を目指し、積極的な観光誘客に努める。

Q 防災士の養成と育成、また町内会と防災士が連携した取り組みについて伺う。

A 地域の底力再生事業の補助メニューに防災士の資格取得に関する費用の一部補助を創設した。防災士の登録制度の創設や組織化を視野に入れながら、さらなる防災士の養成を推進するとともに消防団や町内会、市が連携を図り、事業実施に向けて調査検討する。

Q おもてがう保育園の移転計画について伺う。

A 白河市過疎地域持続的発展計画に基づき、早期移転に向け予算化の準備を進めている。

国道294号白河バイパスの開通はいつになるのか？

2月4日全線開通へ



柴原 隆夫 議員



Q 中心市街地を横断する国道294号は、国道4号と東北自動車道に直結する立派な道路である。横町、田町は住宅地区へと変容し、発展が見込める用地は少なく、車を停留させるアイデアがないと通過道路になる。例えば、東邦銀行移



広い道路幅と余裕ある歩道
 (本町四辻から南湖トンネル方面)

転後の跡地を中央駐車場とし、空き店舗を活用した白河ラーメン店とかのブランド店づくりを行い、また本町四辻から南湖トンネル手前の大変余裕ある道路幅と歩道を利用し「タ市」を開設するなどどうか。

A この点に関しては多方面から探っていく。

Q 生後6カ月以上4歳以下の乳幼児の接種は12月13日現在で、1回目の接種はわずか61名(対象者1,928名)である。保護者の不安に対するていねいな説明が必要ではないか。
A 接種の推奨には慎重な配慮を行っている。

Q ペダルの踏み違いなどによる高齢者の交通事故の多発への対応はどのように。
A 運転免許の自主返納をした場合、利用できるサービスなどの広報活動を行うについで対応していく。

「墓じまい」の声。羅漢山墓地霊園の管理運営は？

区画整備済墓地の利用は全区画数の97%。合葬式墓地の需要は高まっている



大竹 功一 議員



Q 市民の間で後継者問題から「墓じまい」が問題となっている。羅漢山墓地霊園及び霊園内の合葬式墓地の管理運営及び利用状況はどうか。

A 市と市都市整備公社が整備した区画は併せて1908区画。うち利用区画は1844区画で約97%の利用率となっている。現在、管理はシルバー人材センターに委託している。合葬式墓地は令和2年度から運用を開始し、令和4年12月1日現在、178件となっている。



Q 生活保護受給者の一部の方の中には、保護費受給前に市税等の滞納がある場合が多い。そのような方にこそ、福祉の観点から市営住宅を利用してほしいと思うが、現在、市税滞納者には、市営住宅の賃貸が不可能となっている。市条例等を改正し、可能とすることはできないのか。
A 市営住宅は、住宅に困窮する低額所得者向けに賃貸することを目的に、国の補助金や市税により、建設されている。今後は福祉部局と連携し、対応したい。

団塊の世代が75歳となる2025年問題について



石名 国光 議員

自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるよう支援に努める



Q 2025年問題について何う。

A 団塊の世代昭和22〜24年生まれが75歳となる時期に、様々な分野に影響を与えることとされている。

Q 高齢者への影響と対策を何う。

A 医療費・介護費、保険料の負担増、医療・介護の人手不足等、高齢者・現役世代の負担増が予想され社会全体の問題であると考えます。また、市は高齢者サロンや居場所づくり、らく楽体操等の介護予防や健康寿命の延伸事業の実施、在宅医療拠点センター運営と住まいと医療・介護・予防生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムを推進し、高齢者が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けられるよう支援していく。

Q 観光物産協会を取り扱う土産品の数及び土産品開発や販売機会の提供について何う。

A ニノ丸茶屋では新名物開発の取り組みとして、白河実業高校生と連携し「実業だるまバーガー」を開発・販売している。今後も店舗や各種事業者と連携していく。販売機会の提供については、引き続き、各種イベントで各種商品の販売を各店舗に協力要請していく。



産業振興の必要性と成果について



山口 耕治 議員

地域振興の要は産業にあるとの信念をもって



Q 外発的振興である企業誘致と内発的な振興策と併せて推進されているが現在までの成果について何う。また、市長として今後の産業振興の考え方と実行方針について何う。

A 私は、就任以来、一貫して「地域振興の要は産業にある」との信念をもって「企業誘致」と「地元企業の支援・底上げ」を二本の柱として取り組んできました。特に企業誘致は新たな雇用の創出や地元企業との事業取引拡大に加え、税収の増加が見込まれることから、地域の活性化を図るうえで最も有効な施策である。これまでも率先して企業トップと直接交渉し、強い信頼関係を築き、また県との連携により三菱ガス化学やヤフーなどを誘致してきました。これまで、市長就任以降誘致した企業は約30社に上る。

また、地元企業への支援は平成20年に創出した産業サポート白河が、企業訪問を行い、企業間のマッチングや「しらかわ企業データベースを活用した情報発信」「人材確保」など、様々な事業を行っている。



しらかわ地域ものづくり講習会

高齢化で市民の8人に1人が難聴の可能性—早期発見・早期治療が必要!!



深谷 弘 議員



Q 高齢者の聴こえの支援。加齢による聴力の低下は、一般的に40歳代から始まり、65〜74歳では3人に1人、75歳以上では約半数が難聴に悩んでいると言われている。市には何人いると推測できるか。

A 先月1日現在の人口に当てはめると65〜74歳で約3100人、75歳以上は約4400人となる。(市民の8人に1人が難聴)

Q 加齢性難聴では、会話が成り立たず社会的に孤立しがちで、認知症やうつ病への進行が心配される。早期発見・早期治療が求められている。東京都港区では、「高齢者補聴器購入費助成のご案内」リーフを配布し、「聞こえのセルフチェック」(7項目)で問題があれば指定する耳鼻科受診をすすめ、早めの補聴器装用につなげる取り組みを行っている。市ではどのように検討されているのか。

A 高齢者自身が聴覚の状態を確認することは有効。ホームページや高齢者の集い等でのセルフチェックシートの活用について啓発を図っていく。補聴器購入費助成制度導入も検討する。



3 月定例会の予定 正式には2月28日の開会日に決定します。

● 時間：午前10時から ● 場所：本庁舎4階 議場

2月28日(火)	本会議【開会、会期決定、提案理由説明】
3月6日(月)	本会議【一般質問1日目、委員会付託(請願・陳情)】
7日(火)	本会議【一般質問2日目】
8日(水)	本会議【一般質問3日目】
9日(木)	本会議【総括質疑、委員会付託(議案)】
10日(金)	委員会【各常任委員会・付託案件の審査】
13日(月)	委員会【各常任委員会・付託案件の審査】
14日(火)	委員会【各常任委員会・付託案件の審査】
16日(木)	本会議【各常任委員長報告、質疑、討論、表決、閉会】

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、傍聴の際は検温、マスク着用、手指消毒にご協力をお願いします。

本会議はインターネット中継及び録画配信を行っています。

こちらのQRコードを読み込んでください。



取材レポート

表郷 ビャッコイ自生地 清掃活動

「ぼくたちわたしたちが守り続ける」

表郷が国内唯一の自生地となっているビャッコイ。現在、国の特定第一種国内希少野生植物種に指定されている。また、昭和30年から県の天然記念物に指定されているが、今年度当初予算で県から国の天然記念物へ指定を受けるための調査費が計上された。ビャッコイが県の天然記念物に指定されたのが12月27日であったことから、毎年12月にビャッコイの保全活動を担っている「表郷環境ネットワーク」と「表郷中学校の1・2年生」が清掃活動を行っている。今年は生徒87名が参加した。それぞれ手際よくいきいきと作業に取り組んでいた。表郷環境ネットワーク会長の滝田国男さんは、「行政が予算化してビャッコイを守ろうとしてくれるのはうれしいこと。子どもたちにはこの活動を通して地域の宝のあり方を学んでほしい。」と話す。生徒たちからは「ボランティアがないとビャッコイが汚くなってしまっからしっかりと取り組みたい。」「清掃することできれいになっていくことが楽しい。」「地域に貢献できてうれしい。」という声があった。表郷の子どもたちはこの活動を通して「ビャッコイを守り続ける」という意識が根付いている。国の天然記念物に指定されることを待ち遠しく思う。(取材担当：大木)



議会報編集委員会



室井 伸一

高畠 裕

大木 絵理

鈴木 裕哉

佐川 京子 副委員長

石名 国光 委員長

表紙の写真は旧信夫一小・旧信夫二小・旧大屋小の3校が合併して4月6日に開校式が行われた大信小学校です。校長先生をはじめ教頭先生やほかの先生方も子どもたちが学校になじんでくれるのだから、仲良くやっていけるのだらうかと不安を抱えていたのですが、子どもたちはそんな不安を吹き飛ばしてくるくらい、毎日元気に学校に通って来てくれて、大勢の友達が出てきて学校に来るのが楽しいという声が聞こえるそうです。たくさん学んで、たくさん遊んで、忘れられない思い出をつくってほしいものです。

室井委員

編集後記